

## 第5回 知多市家庭系収集ごみ有料化検討会議（要約）

○日 時：平成26年11月7日（金）14時00分～15時30分

○場 所：知多市清掃センター2階研修室

○出席者：委 員（学識経験者） 2名

委 員（市内在住者）10名

事務局（市職員） 7名

### 1 議題

#### (1) 第4回検討会議における意見について

##### <主な質疑・意見など>

特になし。

#### (2) 知多市家庭系収集ごみ有料化基本計画（案）について

##### <主な質疑など>

**【Q1】 平成25年度のごみ処理費用の約14億5千万円とは、家庭系ごみのみについての処理費用ですか。**

**【A1】** 家庭系ごみと事業系ごみの処理費用をあわせたもので、内訳としては、収集運搬、中間処理（焼却等）、最終処分（埋立）の経費、人件費等になります。

なお、平成25年度の家庭系ごみの処理費用を、収集運搬費とごみ量から按分したその他の費用の合計から推計すると、約11億3千万となります。

**【Q2】 有料化などの実施により、1人1日当たりのごみ排出量が県内平均値に近づくと考えられますか。**

**【A2】** 収集ごみの中には、資源回収品目が多く含まれており、有料化やその他の効果的な施策の実施によって、ごみ減量の意識が高まるとともに、ごみと資源の分別が進むことにより、県内平均値までの減量は可能だと考えています。

**【Q3】 本市のごみの排出量は景気動向に関係がありますか。**

【A 3】 本市においては、大きな影響はないと考えます。事業系ごみの排出量が大きく減少した平成20年度から平成21年度は、清掃センターに直接搬入するごみについて、適正指導を実施したことが大きな要因とみています。

また、資源回収量の減について、民間事業者による新聞紙、ダンボール、缶類などの直接回収の増加による影響が小さくないと考えます。

【Q 4】 **有料化について、市民から反対意見は出ると考えていますか。**

【A 4】 今後、パブリックコメント（意見公募手続き）で、反対意見が提出される可能性もあると考えています。既に、近隣市などで実施されている制度であり、検討会議での意見も参考にして、提出される意見には丁寧に説明するとともに、基本計画の策定後、具体的な実施計画を作っていく中で、有料化とあわせて実行できるような資源化施策などについて、地域との意見交流も行っていきます。

【Q 5】 **有料化を導入している自治体は、25%の受益者負担割合を基にした手数料の設定しているのですか。**

【A 5】 行政の関与の程度である「必需性」と、民間サービス提供の可能性の程度である「市場性」を考慮して定めた「受益者負担割合」に基づいて手数料の設定をしている自治体もありますが、考え方は自治体ごとに異なっているようです。視察した滋賀県守山市では、焼却と破碎のごみ処理は「公共的で基礎的なサービス」と位置付けて、受益者負担割合を25%として手数料を設定していました。

【Q 6】 **説明会や広報活動は、具体的にどのように行いますか。**

【A 6】 広報紙、行政区単位の説明会を始めとして、各種団体の会議やイベントの機会を利用した周知を考えています。市民の意見を地球温暖化防止やごみ減量啓発の催しの検討や、より広くメディアに取り上げられるように働きかけていきます。

【Q 7】 **説明会は、制度が決まってから行うものですか。**

【A 7】 手数料の設定や制度の仕組みなど、決定した有料化の制度内容について、説明会を行う予定です。説明会での市民からの意見については、ごみと資源の分別、

資源回収方法と品目など、ごみの減量と資源化の推進の施策に活かすために、地域別の実情や要望に配慮しながら、可能な限り取り入れたいと考えています。

また、有料化制度の開始後も、ごみ減量の結果と効果などについて、継続して市民への説明や広報活動を行っていきます。

### ＜主な意見など＞

- 【1】 現在の知多市のごみ排出状況を考えると、ごみ減量効果を性急に求めることは難しいと思います。無理のない計画で、長期的に進めていく必要があると思います。
- 【2】 知多市方式のリサイクルは、非常に良い方法だと思います。地域の住民が協力してリサイクルを実践していることが、資源を大事にしようという意識につながっていると感じるので、若い方などがリサイクルに関心を持つように、有料化を契機とした意識転換を図ることは良い発想だと思います。
- 【3】 計画案の最初の「ごみ排出量と資源回収量の現状」の記述については、知多市のごみ排出量が県内自治体の中で非常に多いという現状を説明した後に、「ごみ減量のために努力をしてきたが、近年は横ばい状態になっているので、有料化を進める必要がある」という説明の方が市民の理解を得やすいと思います。
- 【4】 概要に記述してある「目的と効果」は「ごみの減量と資源化の推進」などだけでなく、その結果「地球環境の保全」「地球温暖化防止」に寄与できるということを加えた方が市民に納得してもらえそうです。
- 【5】 地球環境のために「知多市民として何をやるべきか」、市の総合計画などに基づいて「何に取り組むべきか」という大きな背景があることを述べてから、有料化の計画が必要な背景や財政上の理由を記述した方が良いと思います。
- 【6】 受益者負担割合の考え方が難しいと思います。25%が適正であることについて、もう少し分かりやすい説明が必要だと思います。

- 【7】 計画案の記述についてですが、「インセンティブ」より「動機付け」という日本語の表現の方が、分かりやすい文章になると思います。年齢的にも幅広い市民に計画案を見てもらうためにも、類似の表現については見直した方が良いと思います。
- 【8】 手数料の負担が生じることによって、ごみの減量が進むという考え方には疑問を感じます。「なぜ、ごみを減らさなければならないのか」ということを踏まえて、「ごみの減量や資源化の推進によって、地球環境の保全に寄与できる」「地球環境のためにやる良いことだ」といった考え方が必要であるし、市民が「こういうことなら、やっても良い」と納得できる表現を考えていく必要があると思います。
- 【9】 手数料を高く設定することが、ごみ減量には効果的だと思います。世帯負担額の試算から考えると有料化を導入している自治体の2～3倍の手数料にしても、それほど負担に感じないかもしれません。ごみ処理費用は、そもそも税金で賄っているため、手数料の導入で直接的な負担になるのか、税金による間接的な負担になるのかの違いだと考えられます。
- 【10】 一般的な考え方として、指定ごみ袋の料金は1円でも安い方が良いと思います。
- 【11】 パブリックコメントを行う前提として、パブリックコメントを実施して、市民から意見を募集していることを市民に周知することが非常に重要だと思います。高齢者世帯などのインターネットが利用できない世帯についても、意見提出が可能な環境が必要だと思います。全戸配布の広報には掲載する必要があると思います。
- 【12】 知多市は、子ども会の参加率が比較的高い自治体です。行政区単位の説明会だけでなく、子ども会やPTA、老人会の会合を上手に利用して説明をする機会を増やしていくことが良いと思います。
- 【13】 来年度、実施計画として具体的な制度内容を検討していく中で、検討状況を継続的に伝えていく必要があると思います。

- 【14】 計画書を取りまとめる時には「はじめに」という項目を入れて、この施策の大目標は「ごみの減量」という表現があり、その有効な手段として「家庭系収集ごみの有料化」に取り組んでいく、といった記述が必要であると思います。
- 【15】 計画案の中で「検討していく」といった記述があるが、やるのか、やらないのか分かりにくいので、取り組んでいくことについては「やっていく」といった記述にした方が、その後の評価もできるとともに、次の目標も立案しやすいと思います。